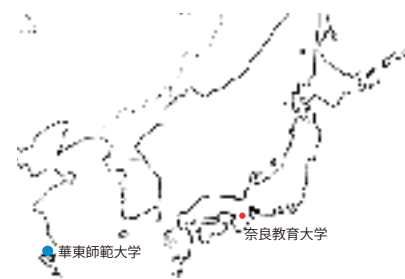


広がる海外連携協定校！

新たに2大学と締結

奈良教育大学では、9つの海外大学と交流協定を締結していましたが、今回新たにアジアの2大学と連携し、併せて11大学と交流を深めることとなりました。新たに協定を締結した華東師範大学（中国）と公州大学校（韓国）を紹介します。



中国
華東師範大学
EAST CHINA NORMAL UNIVERSITY

中国・上海市にある国立大学。大夏大学と光華大学を主な母体として、1951年に設立された。
名称に「師範大学」とあるが、総合大学であり、人文学院や理工学院、芸術学院など18の学院がある。広大なキャンパス内に約23,000名の学生が学んでおり、長期留学生数は約2,400名で、そのうち日本人留学生は334名である。世界各国に120校もの海外協定校があり、そのうち日本の協定校は、東京学芸大学や神戸大学、早稲田大学など32校ある。
Zhongshan（中山）キャンパスは、上海の中心街から車で30分程度と、便利な場所に位置している。そこから南西に車で40分ほど離れた場所に、新キャンパスである Minhang（閔行）キャンパスがある。



調印後の握手



教師教育技能訓練実験研究センター



師範大学



韓国
公州大学校
KONGJU NATIONAL UNIVERSITY

韓国・忠清南道公州市にある国立大学。2年制の道立師範大学として1948年に設立され、1991年に総合大学として国立公州大学校になった。師範大学や工科大学など、6つの単科大学と7つの大学院を備える。中でも師範大学は22の学科を持ち、入学定員567人と韓国の師範大学で最大規模を誇り、全国師範大学評価で最優秀評価を獲得している。

公州大学で3年間修学後、アメリカの大学で1年間留学する「3+1制度」を導入するなど、国際化にも力を入れている。

新官キャンパスのほかに3ヶ所キャンパスがあり、約2万名の学生が学んでいる。海外15ヶ国43の大学・研究機関と交流協定を結んでおり、日本では東京学芸大学や山口大学、鹿児島大学など、7校が協定を結んでいる。



調印後の握手

本学の国際交流協定の現状と展望

副学長（国際交流・地域連携担当）

加藤 久雄



この7月と8月に、華東師範大学と公州大学校の双方と国際交流協定を締結したことによって、本学の国際交流協定大学は、8カ国11大学ということになりました。1986年のロック・ハイブン大学からはじまり、23年間の交流を眺めてみますと、1999年までのアメリカ、ヨーロッパを中心とした国際交流に加え、この10年間で、アジアを中心とした国際交流も盛んになってきたといえます。

本学は、中期目標において「アジアを広域的な地域の一つとして視野に入れ、教育研究上の国際交流を広く推進する。」ことを重点取り組みとして掲げています。また、「多数の世界遺産を有するなど、特色ある奈良の自然・地域文化に根ざした「歴史と文化」「環境と自然」「人間と教育」を重視した個性ある教育研究、学際的研究を推進する。」「教育実践における応用ないし再構成が可能な専門的知見を提供し得る、高度な質の教育研究を促進し、実践的指導力を備えた有能な教育者を養成する。」の2つを掲げています。国際交流協定の23年間の歩みの中にも、このことを明確に読みとることが出来ます。それは、教員養成を主目的とする教育大学との交流が深まってきたこと、アジアの大学との協定が増えてきたこと、西安や公州のように奈良と深い歴史的關係のある地との間での地域文化に根ざした協定が結ばれたことなどに見ることが出来ます。

このような方向性の中で、現在、台湾、カザフスタンなど、4つの大学との協議が進められています。協定校との教育・研究の交流を、交換留学生やシンポジウムなどの様々な企画を通じて、ますます盛んにしていきたいと考えています。

この7月と8月に、華東師範大学と公州大学校の双方と国際交流協定を締結したことによって、本学の国際交流協定大学は、8カ国11大学ということになりました。1986年のロック・ハイブン大学からはじまり、23年間の交流を眺めてみますと、1999年までのアメリカ、ヨーロッパを中心とした国際交流に加え、この10年間で、アジアを中心とした国際交流も盛んになってきたといえます。

1986年7月	ロック・ハイブン大学	アメリカ
1993年4月	ハイデルベルク大学	ドイツ
1996年7月	セントラルミシガン大学	アメリカ
1999年2月	嶺南大学	韓国
1999年3月	ブカレスト大学	ルーマニア
2003年12月	ラジャバット地域総合大学 (RU40)	タイ
2004年3月	リヨン第3大学	フランス
2005年6月	西安外国語大学	中国
2005年12月	インドネシア教育大学	インドネシア
2009年7月	華東師範大学	中国
2009年8月	公州大学校	韓国

大学の取り組み

教員免許状更新講習前半を終えて

特任講師（教員免許状更新講習担当）

西川 雅信

I 更新講習まっただなか 1 必修領域

第一回必修領域の更新講習は、6月27・28日の二日間、そして学校等が夏期休業期間に入った8月6・7日には第二回、8月22・23日には第三回の講習が行われました。各回12時間の講習です。必修領域講習は、幼稚園から小学校・中学校・高等学校・特別支援学校までの幅広い受講者を対象にしており、時代や社会の変化、子どもの変化に適切に対応するための最新の教育知識や技術を修得するとともに、今までの教員生活を振り返り、これからの自身の方向を考える絶好の機会を提供しているように思われます。第一回受講者は342名、第二回は198名、第三回は95名でした。

梅雨明けの遅かった今夏にあって三回とも天候に恵まれ、受講者は受付開始30分前から会場に集まっていました。その表情が硬かったのは、更新講習の趣旨と制度の持つ意味のせいかと思われました。9時から16時までの講習は、講師の言葉を一言も聞き逃さないようにと私語一つなく、ペンやマーカーを走らせてメモをとる音だけが響いていました。さらに、講習のまとめとして実施された修了認定試験は、得点率60%が修了認定ラインであり、受講者が一問一問真剣に解答している姿が印象的でした。

2 選択領域

選択領域講習は、協力大学等の講座も含め、延べ49講座が8月上旬と下旬に分かれて開講されました。この講習は、先生方個人の指導力向上を目指して、校種や教科の

特性を活かした内容や、直接関わっている教育現場での諸課題、興味関心の強いと思われる内容等について行われました。

特に、奈良の地の特性を活かした「地域の伝統文化と文化財を活かす教育」「奈良の森と水と動物」や、教育現場の電子化による「教員のICT活用指導力」、現場での児童生徒へのきめ細かな指導や支援を目指す「学習活動に活かす心理学」「特別支援教育の当面する課題Ⅰ・Ⅱ」等は、現場での必要度や関心度も高く、受講者は熱心に講義に耳を傾けていました。中には、講習の後直接講師に質問や相談をしている姿も見られました。

II 前半を終えて

講習日最後に行われた評価アンケートを見ると、「役に立つ講義であった」「教育実践の参考になります」等個別に感想が書いてあるものもあり、相対的に良好な評価でした。

しかし、わずかながらも講習に対して批判的なご意見やご指摘もいただいています。講習内容が現場の先生方のニーズに合致しなかったり、内容が高度になり過ぎて受講者が理解しにくかった講習等については、その都度改善を図るよう適切に努力をしています。

後半の免許状更新講習も現場の先生方の教育力向上に役立ち、「積極的に参加しよう」「受けて良かった」「参考になった」と喜ばれるような講習になるよう、工夫改善に努めていきます。